

平成30年度学校評価

兵庫県立神戸聴覚特別支援学校

アンケート回答選択肢：よく当てはまる = 4点、 ほぼ当てはまる = 3点、
あまり当てはまらない = 1点、 当てはまらない = 0点

評価の点数について、素点平均 = 4～0の評価の平均値 (4点満点)
達成率 = 素点平均 × 100 / 4 (100%表示)

達成率	評価
80%以上 100%以下	A
60%以上 80%未満	B
40%以上 60%未満	C
20%以上 40%未満	D
0%以上 20%未満	E

1 職員による自己評価

領域	評価の観点	実践目標	達成率	評価	成果・課題・改善策
	開かれた学校づくり	学校は学年通信や保健だより、みみだよりなどを発行することで、保護者や子どもたちへ情報発信ができています。	86	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月初めに学部だよりや学年（学級）通信、耳だよりなどを発行し、情報発信ができています。 ・ホームページの内容を学部で精選し、計画的にアップしている。
		学校のホームページは適切で興味ある内容になっている。	77	B	
		学校は日頃から育友会との連携をとり、学校の教育活動の理解を促すよう努めている。	79	B	
		学校は地域のセンター的機能を果たしている。	79	B	
	進路指導 キャリア教育	学校は卒業後の社会参加や自立に必要な力を身につけるため、幼児から発達段階に応じた進路学習（自立に向けた学習）を行っている。	76	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学部ごとに発達段階に合わせて、教科学習や就労体験を計画し実施している。 ・個別の教育支援計画は担任団、部長、総合支援センターと内容を確認しながら作成している。
		個別の教育支援計画は、担任と保護者の話し合いで子どもたち一人一人の目標に基づいてつくられている。	80	A	
	教職員の 資質向上	学校は研究授業や公開授業、研修会などを計画的に実施し、指導力の向上に努めている。	82	A	<ul style="list-style-type: none"> ・外部と連携した研修や校内研究の内容を充実させ、専門性を高める。 ・必要性のあるIT機器については、計画的に拡充していく。 ・授業でのIT機器の活用法について研究授業を実施した。 ・子どもたちの人権に配慮した指導を徹底する。
		学校は聴覚障害の専門性について職員相互で高め合おうとする雰囲気がある。	73	B	
		学校ではコンピュータやIT機器は充実し、授業や校務での活用の幅が広がっている。	70	B	
		学校では、教職員が高い人権意識を持って、幼児・児童・生徒と接している。	69	B	
	危機管理 体制の整備	学校は子どもたちが安全に過ごせる環境を作り、事故を防止するための適切な配慮を行っている。	72	B	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練や研修を計画的に実施しているが、実際の非常時に対応できるように職員の意識向上を目指す。 ・学部長会を通じて、子どもについての情報共有をさらに充実させる。
		学校は危機対応力がある。（個人情報管理、不審者対応など）	69	B	
		学校は子どもたちの問題に組織的に取り組める体制が確立している。	68	B	
	関係諸機関との連携	学校は医療、福祉、労働等の諸機関と連携する機会を持ち、子どもたちの支援に活かしている。	77	B	<ul style="list-style-type: none"> ・総合支援センターや進路指導部を中心に、充実した取り組みが出来ている。
	学部・学年運営	学校では保・幼・小・中・高の学部間の連携や、校務分掌部間の連携ができています。	59	C	<ul style="list-style-type: none"> ・学部間、分掌間の連携のための対策が課題である。
	教育相談	学校はいじめの未然防止を図りながら、いじめの早期発見に取り組むとともに、いじめを認知した場合に迅速かつ適切に対応している。	77	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担任や学部は児童生徒、保護者からの相談に対して、真摯に対応できている。 ・相談の他にも定期的にたよりを発行し情報発信に努めている。 ・就学については、教育支援委員会を中心に各部署が連携し、該当の幼児児童生徒について共通理解をするなど、組織的に対応する。
		学校は子どもや保護者の進路や学習の悩みに対して個人面談などを行い、適切な指導をしている。	81	A	
		学校は補聴器や人工内耳に関する相談に対して適切なアドバイスができています。	83	A	
		学校は幼児・児童・生徒の教育支援（就学指導を含む）において、情報を共有し組織的かつ適切な対応ができています。	72	B	
	合理的配慮	学校では、幼児・指導・生徒に対して合理的配慮が提供できている。	75	B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画や個別の指導計画にその子どもの合理的配慮について記述し、次年度への引き継ぎを確実にする。
	校務処理	学校では勤務時間の適正化が図られている。	60	B	<ul style="list-style-type: none"> ・共有リンクを活用して教材や文書を共有できるシステムを構築する。 ・グループウェアの活用をさらに進め、業務の効率化をはかる。 ・行事の見直しを行い、準備等を簡素化する。 ・効率的に会議を進行するため、資料のデジタル化などを進める。
		学校では校務の合理化が図られている。	57	C	
教育課程	個に応じた 学習指導	学校は個別の指導計画を基に、子供の障害に配慮した教育活動を行っている。	76	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりに応じた教科指導がされているが、さらなる基礎学力の定着のため、保護者の協力をもとに家庭学習の充実を進める。
		学校は子どもたちが主体的に学習に取り組む場面を設定し、学びを深めるような授業を行っている。	73	B	

	25	特別活動・行事	学校は子どもたちが主体となる行事やイベント活動の充実に努めている。	82	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や各学部学年の行事では子どもたちが主体的に活動できるよう、配慮している。 ・消防署と連携した防災訓練が実施できている。 ・警察や民間企業などと連携して、発達段階に対応した交通安全教室を実施している。 ・テーマ（命）に即した総合学習を実施し自他を大切にすることを育む教育を行っている。
課題教育	26	防災・安全教育	学校はより具体的な災害状況を想定した実践的な防災訓練をしている。	82	A	
	27		学校は交通事故防止などの安全教育を日頃から行っている。	72	B	
	28	人権教育	学校は命を大切に、人権を尊重した教育を行っている。	77	B	
	29	食育	学校給食を通して食生活や食事のマナーなど望ましい食習慣の指導を行っている。	77	B	
平均				74	B	

2 中学部・高等部の生徒による評価

	設問	達成率			評価	成果・課題・改善策
		中	高	合計		
1	予習・復習などの学習習慣が身についている。	63	62	62	B	<ul style="list-style-type: none"> ・7、8、9、13項目の決まり、ルール、マナーを守ること、いじめの問題については生徒の中で評価が高い。日頃の学部での指導の効果もあり、全体的に落ち着いている要因にもなっている。 ・昨年度の評価がCであった「相手に応じた言葉遣い」（項目12）がBとなっている。言語獲得は本校の課題であり、言葉遣いも国語の授業だけでなく道徳や進路学習などで取り組んでいる成果が見られる。 ・部活動の評価が下がりつつある。今年度は野球部や女子バレー部が希望人数減のため休部となったが、今後の部活動のあり方について検討が必要である。 ・「自分の悩みや困ったことなどいろんな話ができる相手がいるか」についての評価（19・20）はここ数年高くなっているが、学校カウンセリングの活用もふまえて自分で抱え込まないような雰囲気づくりを今後も心がける必要がある。
2	宿題や課題をきちんとやって、期日までに提出している。	69	72	71	B	
3	授業中は、気持ちを集中して学習している。	75	79	78	B	
4	授業の内容は、よく理解できる。	84	63	72	B	
5	先生の話（手話）は、よくわかる。	81	86	84	A	
6	中間試験や期末試験の前には、計画を立てて一生懸命勉強している。	66	66	66	B	
7	学校や学部のきまりをきちんと守って、生活している。	73	90	83	A	
8	携帯やスマートフォンは、ルールを守って使っている。	88	86	87	A	
9	交通ルールや電車やバスの中でのマナーを守っている。	91	92	92	A	
10	掃除の時間はまじめに取り組み、学校の備品や施設を大切に使っている。	78	80	79	B	
11	自分から積極的にあいさつをしている。	88	72	78	B	
12	相手に応じた言葉遣いで話すように、気をつけている。	59	70	65	B	
13	いじめの問題が起きないように、みんなと仲良く行動している。	77	86	82	A	
14	日番や週番など、当番の仕事を怠けずにきちんとやっている。	88	86	87	A	
15	部活動に熱心に取り組んでいる。	84	71	76	B	
16	文化祭や体育大会などの行事に、まわりと協力して取り組んでいる。	89	89	89	A	
17	防災の学習や、講演会（携帯、性教育など）によって、自分の生活を見直したり考え方を変えたりしたことがある。	63	64	63	B	
18	進路の講演会や卒業生のお話を聞いて、自分の進路について考える参考になった。	73	78	76	B	
19	悩んだり困ったりした時に、相談できる友だちや先生がいる。	80	75	77	B	
20	勉強のことや友だちのことについて家の人と話をする。	78	64	70	B	
21	この学校に入ってよかったと思っている。	86	76	80	A	
平均		78	77	77	B	

3 保護者による評価

	設問	達成率（学部別）					評価	成果・課題・改善策
		保幼	小	中	高	合計		
1	お子様は学校に行くのを楽しみにしている。	87	84	89	75	84	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「お子様は学校に行くのを楽しみにしている」「授業はわかるように工夫されている」「お子様は学校行事を楽しみにしている」「お子様を本校に入学させて良かったと思う」の評価が高い（A）の項目は、保護者にとって本校に対する信頼度も高いといえるが、「目標や方針がわかるように提示されている」の評価がBであるのは、学校および学部の取り組みの目的や目標などが見えにくい状況であると考え、それをどう改善するかが課題である。 ・ホームページや配布物などの情報発信の評価が昨年度のBからAになっており、学校の情報を様々な媒体で保護者に伝えている取組が評価されていると考える。 ・いじめのない学校づくりの評価が昨年度のBからAになった。いじめアンケートの実施とともに、中学部では命をテーマとした総合学習に取り組むなど、それぞれの学部の教育活動の成果であると考え。 ・宿題についての評価が低い。学校からは宿題を全く出していないことはないが、この
2	学校や学部・学年の目標や方針がわかるように提示されている。	84	69	78	70	75	B	
3	学校のホームページや配布物などで適切に情報発信をしている。	86	78	89	76	82	A	
4	保育は楽しくよくわかるように工夫されている。授業は目標が明確で楽しくよくわかるように工夫されている。	90	79	80	74	81	A	
5	お子様の成長の様子や課題など評価がわかりやすく伝えられている。	87	75	83	75	80	A	
6	学校は学んだことを家庭で取り組めるように課題を伝えている。	79				79	B	
7	学校は親子で学校生活の様子を家庭で話ができるような支援をしている。	87				87	A	
8	宿題はお子様にとって適切な量である。		65	73	52	64	B	
9	学校は子ども同士の関わりを深めていけるよう取り組んでいる。		71			71	B	
10	学校は部活動などの課外活動に積極的に取り組んでいる。			84	77	81	A	
11	学校は挨拶やルールを守る指導をしている。	91	76	87	86	85	A	
12	学校は本人や保護者の願いや思いをきちんと受け止めている。	88	61	88	78	79	B	
13	学校は防災や不審者侵入などの対策ができている。	78	55	73	75	70	B	
14	学校はいじめのない学校づくりに取り組んでいる。	87	74	83	77	80	A	

15	学校は親子ともに学校行事を楽しめるよう内容を工夫し計画・実施している。	93				93	A	ような評価になっていることを職員に周知する必要がある。
16	お子様は学校行事を楽しみにしている。		93	95	88	92	A	
17	学校は進路(進級を含む)に関する十分な説明と適切な指導を行っている。	79	66	77	79	75	B	
18	学校は家庭・地域・医療との連携・協力が図れている。	74	69	83	76	75	B	
19	お子様を本校に入学させて良かったと思う。	95	74	88	84	85	A	
	平均	88	72	83	76	79	B	

4 学校評議員による評価

	設 問	達成率	評価	成果・課題・改善策
1	本校の教育は保護者や社会の期待に応えている。	92	A	<ul style="list-style-type: none"> ・施設面の評価が低い点については、不審者侵入等の安全対策が小学部のみ評価が低いという結果によっても反映されていると考え、出入り口が2か所ある校舎敷地の現状をふまえて、安全対策の問題点を確認し、安心して学べる環境の整備に努める。 ・職員の働き方改革については、毎月学校安全衛生委員会を開き、働きやすい環境づくりや、ノー会議デー（月曜日）と定時退勤日（金曜日）の設定など具体的な形で進めており、職員のストレスについても周りが気づく関係づくりに取り組むとともに、ストレス対策の学習会も検討する。 ・通院先の専門医および居住地の教育委員会とカンファレンスを行うなど、様々な専門職との連携をとりながら、幼児児童生徒の支援を進めていく。
2	聴覚特別支援学校としての専門性が十分に発揮されている。	83	A	
3	本校は「生きる力」を育む教育の推進を行っている。	83	A	
4	幼児児童生徒の健康や安全に対する指導が適切に行われている。	92	A	
5	本校の施設は、教育活動を進める上で十分に整備されている。	58	C	
	平均	82	A	